



日本音楽教育学会ニュースレター 第92号

目次

1 学会からのお知らせ

- | | | |
|------------------------------------|-------|---|
| 1. 日本音楽教育学会第54回弘前大会のご案内(第1報) | 今田 匡彦 | 2 |
| 2. 学会賞審査委員会報告 | 榎藤 敦子 | 3 |
| 3. 編集委員会からのお知らせ | 今田 匡彦 | 3 |
| 4. 選挙管理委員会からのお知らせ | 山本 幸正 | 4 |
| 5. 日韓音楽教育実践交流会報告 | 菅 裕 | 5 |
| 6. 教科教育学コンソーシアム報告 | 伊藤 真 | 5 |

2 音楽教育の窓

- | | | |
|---|--|---|
| 1. 2023年度に開催される音楽教育に関わる学会・研究会等の情報 | | 6 |
|---|--|---|

3 会員の声

- | | | |
|-------------------------|-------|---|
| 1. 日韓音楽教育実践交流会参加記 | 浅間 里華 | 7 |
| | 酒井 勇也 | 7 |

4 会員の新刊・近刊等紹介

8

5 報告

- | | | |
|----------------------------------|--|----|
| 1. 2023年度日本音楽教育学会 第1回常任理事会 | | 9 |
| 2. 2023年度日本音楽教育学会 第1回理事会 | | 11 |

6 事務局より

16

[編集後記]

1 学会からのお知らせ

1. 日本音楽教育学会第54回弘前大会のご案内（第1報）

大会実行委員長 今田 匡彦

2019年以來4年ぶりの対面による大会が、2023年10月14日（土）、15日（日）に弘前大学にて開催されます。弘前市在住の数十名に満たない会員を除いては、決して地の利の良い開催地とは言えません。久々にヨッコラサコラサとドレスアップして、遠方よりご参加頂くわけなので、骨折り損の草臥れ儲けに成らないよう、これから開催日まで1日に30分以上は大会運営のことについて真剣に考えるよう心がけようと思っております。今回のテーマは「音楽教育とウェルビーイング—次世代に芸術が果たす役割を考える—」です。ウェルビーイング、即ち、精神と身体+社会の健康とは何なのか、文化資本、所得格差、人種、ジェンダー、中心と周辺などなど、変数が増えれば増えるほど、いったい万人を貫く普遍的なウェルビーイングなどあり得るのか、というような気分にもなってきます。そしてこの問いはそのまま「音楽」という言葉にも当てはまります。即ち、「みんなで大きな声で歌っていれば健康！」ってなことには、恐らくならないのでしょう。

私たちが極めて一般的に「音楽」という言葉を使うとき、それらはすべて市場経済に流通する商品、という共通点を持ちます。さまざまなジャンルにより細分化された商品としての「音楽」は、大変魅力的なので、子どもたちは学校とは関係なく買い物上手になっていくこと間違いなしです。今回の大会実行委員会企画は商品としての「音楽」の外側を、ウェルビーイングを切り口に考えます。

さて、1945年に20歳だったブルーーズ、17歳だったシュトックハウゼンは、シェーンベルクによる12音技法を拡張したトータルセリーにより、ナチスが盗用したバッハからワグナーに至るドイツの音楽的伝統（調性音楽）を廃棄することにより、ポピュリズムと決別しました。ケージは易经、禪を武器に西洋クラシック音楽の基盤を脱構築しました。このような前衛の動きは当時の日本の作曲家たちに明治以来の「西洋音楽」の植民地支配、西洋の亜流からの脱却という希望を与えました。しかし、教育現場ではこのような「希望」が有効活用されたとは言えません。以上の視点から「子どもと現代音楽」について、今回作曲家の三宅榛名氏にオンディマンドでご登壇頂きます。

対面によるシンポジウムでは、ピアニストで現代音楽のスペシャリストである松永加也子氏、コミュニティ音楽、音楽療法等を研究・実践されてきた沼田里衣氏（大阪公立大学）、ウェルビーイングを切り口とした教育調査を行う高橋憲人氏（弘前大学）をパネリストとして迎えるとともに、三宅氏とシンポジウムを繋ぐ役割を小沼純一氏（早稲田大学）、企画・司会を今田がそれぞれ務めます。

【日程表】（暫定）

10月14日 (土)	9:00	12:10	13:20	13:50	14:00	16:00	16:10	17:10
	研究発表I (口頭発表)		昼休憩	開会式	実行委員会企画	総会		
	ポスター発表I							
10月15日 (日)	9:00	12:10	13:10	14:50	15:00	16:30		
	研究発表II (口頭発表)		昼休憩	常任理事会企画 (プロジェクト研究)		共同企画II		
	院生フォーラム ポスター発表II		共同企画I					

* 日程は、研究発表・ポスター発表・共同企画の申し込み状況等により変更する場合があります。

2. 学会賞審査委員会報告

学会賞審査委員長 榎藤 敦子

2023年4月8日開催の学会賞審査委員会（オンライン開催）にて、第8回学会賞の受賞者が選ばれました。授賞式は2023年10月14日、日本音楽教育学会第54回弘前大会にてとり行われます。

第8回学会賞受賞者：小畑 千尋 会員

授賞対象論文：「重度の聴覚障害学生の歌唱活動における内的フィードバック能力の獲得過程」

（『音楽教育学』第52巻第1号掲載）

選定理由：

本論文は、聴覚障害者の内的フィードバック能力の獲得過程に焦点をあてた事例研究である。長期にわたるセッションの過程と研究協力者の変化がわかりやすく示され、記録・分析の方法には妥当性があり、分析内容に基づく考察には説得力がある。また、信頼関係を築きながら、重度の感音性難聴のある人を歌唱活動へと導く手だてを検討した過程が、倫理的な配慮を踏まえて記述されている。加えて、本論文は、人間にとって〈うたうこと〉とはなにかを問うという視座をも提示しており、身体感覚の交流による実践を通し、歌唱活動を介して「対等な」交流が生み出されていった取組は教育的にも意義深く、今後の音楽教育学の発展に資する研究として期待される。

以上の理由により、本論文を第8回学会賞にふさわしいものとして選定した。

3. 編集委員会からのお知らせ

編集委員長 今田 匡彦

2023年度の第1回編集委員会は、5月21日（日）に聖心女子大学で開催予定です。編集委員会は2020年度からずっとオンライン開催でしたので、今回は久々の対面開催となります。Teamsでの会議は、出張の手間もなく、なんとなくリラックスできて、審議もホイホイ効率よく進むわい、と思っていたのですが、実は現委員のみなさんの顔が良く分からない、どのような服が好きなのか、どのような仕草をするのか、といったそのヒトがヒトとして〈在る〉質的な様相が見えてこない、ということに、今更ながら気づいた次第です。ヒトとオンガク、オンガクとコトバ、オンガクとヒトとコトバ、ヒトとヒトとオンガク、ヒトとヒトとオンガクとコトバ...に生起する質的にしか分からない現象を、研究方法論という奇妙な作法にぶち込むとき、結局、ある種の質、或いは原初の肌理は、損なわれま。同時に、質を量的な多寡（数字を含む言語という極めて荒い目の篩）で判断する、という矛盾が査読には常に付き纏いもします。Teamsの小さな窓から覗くさまざまな異なる表情、スピーカー-或いはヘッドセットから聞こえる声のテクスチャーは、それぞれの委員の想像力で補うしかありません。直接見える、或いは聞こえるモノ・コトが、必ずしも質を保証するわけでもないでしょう。しかしながら〈音楽教育学〉という魅力的な研究分野の編集委員会は、やはり対面が良い、ということになればなとも思います。

次回委員会では『音楽教育実践ジャーナル』vol.22の特集テーマも決定予定です。

4. 選挙管理委員会からのお知らせ

第26期 会長・理事選挙 —電子投票の期間・パスワード・手順—

選挙管理委員長 山本 幸正

7月上旬、会員の皆様のお手元に「第26期 会長・理事選挙【重要】」と明記されたはがきが届く予定です。この《選挙はがき》には、電子投票の期間（投票開始日時、同終了日時）、電子投票システムにログインするための個別のパスワード、投票の手順が記載されています。

このはがきはV型圧着はがきとなっています。圧着部分を剥がしてしまうと、従来どおりの投票用紙による投票はできなくなります。詳しくは届いた《選挙はがき》宛名面をご覧ください。

【電子投票の期間と手順】

投票開始:2023年7月10日0時

投票終了:2023年7月28日24時

日本音楽教育学会ウェブサイトへアクセスし、「2023 選挙はこちら」をクリック



「電子投票システム ログイン画面」で、開いたはがきの左ページに記載されているパスワードを入力し、ログイン

電子投票システム ログイン画面



パスワードは半角英数字で、大文字・小文字の区別があります。

ログインすると投票画面になります。投票画面冒頭の「選挙公報」をよく読み、続いて会長候補者一覧から1名、所属する地区の理事候補者一覧から定数以内の人数の候補者を選び、チェックします。

候補者は横4列に表示されます(イメージ図)

投票する人にチェック丸を入れる ⇒
取り消す場合はもう一度クリック

最初に会長候補者一覧、「次へ」を押すと所属地区の理事候補者一覧に遷移します。

<input type="checkbox"/> A0000 音楽 太郎	<input checked="" type="checkbox"/> A0000 音楽 次郎
<input type="checkbox"/> A0000 音楽 春子	<input type="checkbox"/> A0000 音楽 冬子
<input type="checkbox"/> A0000 音楽 三郎	<input type="checkbox"/> A0000 音楽 秋子
<input type="checkbox"/> A0000 音楽 四郎	<input type="checkbox"/> A0000 音楽 夏子
<input checked="" type="checkbox"/> A0000 管弦 楽子	<input type="checkbox"/> A0000 吹奏 楽太

次へ

会長 投票数:0

次へ 前へ

九州 投票数:0

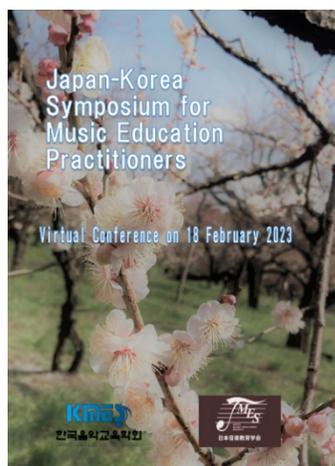
会長と所属地区(ここでは九州地区を例示)の「次へ」「前へ」のボタン。会員数の多い地区は複数画面に分かれています。

会長と理事の両方にチェックを入れてから「送信」をクリックします。投票内容の確認の画面になります。この後「投票」に移りますが、投票は1回限りしか行えませんので、選出内容をよく確認してから「投票」ボタンを押してください。修正する場合は「戻る」ボタンを押して、投票画面に戻ってください。

「投票」ボタンを押すと「投票が完了しました」というメッセージが出て、投票完了です。このメッセージが出ない場合には、最初からやりなおしてください。

5. 日韓音楽教育実践交流会報告

日韓音楽教育実践交流会実行委員長 菅 裕



2023年2月18日土曜日に日韓音楽教育実践交流会がオンラインで開催されました。当日は日本と韓国から合わせて約80名の参加がありました。冒頭、韓国教育学会会長キム・ミソク先生と日本音楽教育学会会長権藤敦子先生からご挨拶をいただきました。その後、幼児教育、小学校教育、中・高等学校教育、大学教育の4つの部門別に、日韓お一人ずつ合計8名の発表者が登壇し、ICTを活用した音楽教育実践報告を行いました。Chrome Music LabやBandLabなどのオンラインアプリケーションを活用した創作授業やYAMAHA Syncroomによる遠隔合奏、あるいはiPad等のタブレット端末やロイロノート・スクールを活用した協働学習などの先進的な取り組みが紹介され、参加者の関心を集めました。終了後、参加者からは、「日韓のICT実践報告を聞き比べることで、音をデジタル化する手続きや創作・表現するための

のツールが共通する箇所だったり、両国の伝統音楽学習にも活用されていたりと、音楽科における学習開発への示唆をいただきました」「音楽アプリについて知っているものも多かったのですが、知らないものもあり、1つのアプリの活用方法が深くわかると使用の幅が広がり研究も深まると思いました」などの感想をいただきました。

日韓音楽教育実践交流会実行委員

統括：菅裕 会計：○近藤真子／菅裕 プログラム作成：○水戸博道／高須裕美／船越理恵
資料翻訳・通訳：○金奎道／山本華子／佐藤真由子／チェ・ウンア／ムン・グァンウ／ヤン・ユンソン
Zoom・VTR再生マネジメント：○菅裕／酒井勇也 HP作成：○伊原小百合／金奎道／菅裕

6. 教科教育学コンソーシアム報告

教科教育学コンソーシアム理事 伊藤 真

2023年3月11日（土）に教科教育学コンソーシアム第3回シンポジウムが開催されました。教科教育に関連する14の学協会が加盟する本コンソーシアムは、研究者及び実践者の交流促進、教科教育実践・研究の発展を目指しています。昨年度秋から研究推進委員会を中心に各教科で用いられる用語を抽出し、教科間における捉え方の違いとその背景について研究が進められました。今回のシンポジウムでは「教科教育学に共通言語はあるかー各教科・各学協会ですべて使われている用語・概念の意味比較」と題して、社会科関連学会から「理解」「探究（探求）」「批判（批評）」に焦点を当てた発表が行われました。その中で、例えば「理解」については、ブルーム・タキソノミーを意識した活用をする教科もあれば、人々の活動や制度の意味理解に近い活用をする教科もあるなど、教科間で用語の定義や関心度に差が見られることが報告されました。今後は認識論や研究方法等について議論を進め、教科教育学としての学術共同体構築を目指す予定です。

なお、今回のシンポジウムの詳細は本コンソーシアムの機関誌『教科教育学コンソーシアムジャーナル』に掲載予定です。J-STAGEにて公開されますのでぜひご覧ください。また、本コンソーシアムでは加盟学協会の会員から論文を募集しています。ウェブサイトにある編集規程、投稿規程、及び投稿論文フォーマットをご確認いただき、皆様からのご投稿をお待ちしております。

2 音楽教育の窓

1. 2023 年度に開催される音楽教育に関わる学会・研究会等の情報

6月17日(土)・18日(日)	日本音楽知覚認知学会 2023 年度春季研究発表会
場所：東京情報大学 現地発表およびオンライン配信	URL： http://jsmpc.org/meetings/
6月17日(土)・18日(日)	日本音楽表現学会第21回(平安)大会
場所：京都女子大学	URL： http://www.music-expression.sakura.ne.jp/meeting/meeting-top.html
7月8日(土)・9日(日)	日本カリキュラム学会第34回大会
場所：大阪教育大学 天王寺キャンパス	URL： http://jscs.b.la9.jp/meeting/meeting.html
7月29日(土)・30日(日)	日本コダリー協会全国大会 2023 in 北海道
場所：市立札幌開成中等教育学校ほか	URL： http://kodaly.jp/
8月4日(金)・5日(土)・6日(日)	日本赤ちゃん学会第23回学術集会
場所：千里ライフサイエンスセンターほか	URL： https://www-ams.eng.osaka-u.ac.jp/akachan2023/
8月9日(水)・10日(木)・11日(金)	2023 APSMER Seoul
場所：Seoul National University of Education	URL： https://apsmer.kr/
8月19日(土)・20日(日)	日本学校音楽教育実践学会第28回全国大会
場所：国立オリンピック記念青少年総合センター	URL： https://www.27ongakujissen.com
8月24日(木)・26日(土)・27日(日)	日本教育学会第82回大会
場所：東京都立大学南大沢キャンパス ハイフレックス方式	URL： https://jera-taikai.jp/
8月24日(木)・25日(金)・26日(土)	全国大学音楽教育学会第38回全国大会(東京大会)
場所：KKR ホテル東京他	URL： https://www.nacome.com
8月27日(日)	音楽学習学会第19回研究発表大会
場所：関西学院大学上ヶ原キャンパス	URL： https://jsml.jp/press
9月1日(金)・2日(土)・3日(日)	第23回 日本音楽療法学会学術大会
場所：長良川国際会議場	URL： https://www.k-gakkai.jp/jmta23/index.html
9月23日(土)・24日(日)	教育史学会第67回大会
場所：開催形式は検討中	URL： http://kyouikushigakkai.jp/annual_meetings
9月30日(土)・10月1日(日)	日本教師教育学会第33回研究大会
場所：東京大学 ハイフレックス方式	URL： https://33rd.jsste.jp
10月7日(土)・8日(日)	日本教科教育学会第49回全国大会(弘前大会)
場所：弘前大学	URL： https://jcrda.jp
10月14日(土)・15日(日)	日本教育方法学会第59回大会
場所：慶應義塾大学三田キャンパス	URL： https://www.nasem.jp/58th-meeting/
10月26日(木)・27日(金)	全日本音楽教育研究会全国大会富山大会(総合大会)
場所：富山市民芸術創造センター他	URL： https://www.jsme.net/toyama1.pdf
11月4日(土)・5日(日)	日本音楽学会第74回全国大会
場所：聖徳大学	URL： http://am-msj.sakura.ne.jp/74/index.shtml

3 会員の声

1. 日韓音楽教育実践交流会参加記

「日韓音楽教育実践交流会—ICT とこれからの音楽教育—」に参加して

浅間 里華（千葉県流山市立西初石小学校）

2023年2月18日、70人以上の参加者と共にオンラインで出席した日韓音楽教育実践交流会では、日韓それぞれの幼、小、中高、大、各1校ずつICTに関する研究発表を拝聴しました。コロナ禍の授業においてICTツールを使った音楽づくり学習活動ではSong Makerや、リアルタイム型の演奏に重点をおいた遠隔アンサンブル教育のSyncroom等、アプリを紹介した研究発表が多く見られました。

日本の中学校ではタブレット活用の能《船弁慶》鑑賞後、その魅力を伝えるためのリーフレット作成や、小学校ではLoiLoNoteの一覧表示機能を使い、4年生1人1人の《さくらさくら》箏演奏を視聴できる取組等が紹介されました。韓国とアメリカのBandLab活用による音楽づくり交流では、韓国の伝統楽器の響きにアメリカの高校生が大いに関心を寄せたことがわかりました。このアプリのチャット画面でのやりとりや演奏を通し、時空を超え異なる文化理解ができると改めて感じました。

西洋音楽（長調・短調）の響きに傾いた音楽教育が多い中、日韓小中高の各校1例ずつ伝統音楽を取り上げた意義は大きいと思います。文化継承を大事にすることにより自国理解が深まるからです。また、西洋音楽ばかりでなく様々な音楽を知ることにより、多様性と共感力を育むことができます。国境を越え、音楽教育で共に手を携えることの意味はここにあります。今回は日韓だけではなく、広く他国の文化も共有し、豊かに学びながら具体的な情報交換ができればなお嬉しいです。

最後になりましたが、ご指導ならびに運営くださいました先生方に、心より御礼申し上げます。

日韓音楽教育実践交流会を終えて

酒井 勇也（宮崎大学）

2023年2月18日に、日本音楽教育学会と韓国音楽教育学会の交流イベントとして、Zoomミーティングでのオンラインにて、「日韓音楽教育実践交流会—ICT とこれからの音楽教育—」が開催されました。幼児教育、小学校教育、中学校・高等学校教育、大学教育、それぞれの立場から、韓国と日本それぞれ1名、全8名の実践報告によって、今後の音楽教育の発展のための情報の交換・共有をはかるという趣旨のものでした。

私は、今回、実行委員として運営に携わるとともに、大学教育における実践報告の発表を行いました。実行委員としては、Zoomマネジメントのチームとして、当日のZoom操作や、一部の発表動画への字幕付け等を担当しました。国際交流において語学の障壁はまだ大きく、翻訳・通訳チームの先生方の多大なるサポートの心強さがとりわけ印象的でした。改めてお礼申し上げます。

発表に関しても、幼稚園でのルーパーを使った教育実践や、ドゥドルバッハ等AIを活用した音楽づくり・創作の授業、米韓での遠隔協働音楽制作、ビジュアルプログラミングソフトウェアを活用したオリジナルのリコーダー学習用アプリケーション開発等、興味深い実践ばかりだったので、大変刺激的で勉強になりました。今年はAPSMERソウル大会も開催されますし、今後の両国の音楽教育の交流のさらなる深まりを祈念しております。最後になりましたが、本会を様々な形でご支援くださった皆様に、改めて心より感謝申し上げます。

4 会員の最新刊・近刊等紹介

★芳賀 均 著『改めてつくる音楽の授業』幻冬舎 2023/2/28 A 6判・222 頁 ISBN : 9784344944015
[本体 1,300 円+税]

音楽を他教科の勉強に置きかえながら、音楽科教育の方法について改めて捉えなおした。

★小川 昌文・田邊 裕子・戸谷 登貴子・田中 路・清水 稔 編著『よくわかる音楽教育学』ミネルヴァ書房 2023/3/7 B 5判・266 頁 ISBN : 9784623094899 [本体 3,000 円+税]

新しい音楽観と音楽教育観に基づく音楽教育学の入門書兼学校音楽教育の「実践指南書」。全 109 項目・26 コラム。国際的視野に基づき、音楽科の教育現場における「理論と実践の往還」を提案する。

★吉富 功修・三村 真弓 編著『改訂5版 幼児の音楽教育法—美しい歌声をめざして』ふくろう出版 2023/3/25 A 4判・224 頁 ISBN : 9784861868740 [本体 2,500 円+税]

本書は、幼稚園教諭・保育士養成課程の授業を担当している大学の教員たちが幼児音楽教育に関する重要な内容を記載している。第5版は、新たに多数の教員たちが加わり、フレッシュな内容となっている。

★高倉 弘光・平野 次郎・笠原 壮史 著『未来につなぐ音楽授業—コロナ禍の筑波大学附属小学校音楽科 Diary 子どもたちとの軌跡—(教育音楽ハンドブック)』音楽之友社 2023/3/27 A 5判・160 頁 ISBN : 9784276321014 [税込 2,200 円+税]

パンデミックとなった、2020 年春から 2 年余にわたる音楽授業を記録した書籍である。様々な制限下での授業構築は、「3つの資質・能力」を育成する授業構築と軌を一にしていたのは興味深い。

★芳賀 均・森 健一郎 著『総合的な学習としての STEAM 教育の実践—音や音楽を題材にした活動— Practicing STEAM Education as Integrated Learning : Activities With Sound and Music as the Theme』幻冬舎 2023/4/28 A 6判・232 頁 ISBN : 9784344944633 [本体 1,500 円+税]

音や音楽を題材にした STEAM 教育の活動について、実践と理論の両面から述べた。

今回も、たくさんの方の新刊紹介をありがとうございました。

本 NL の5頁及び7頁でご報告いただきました「日韓音楽教育実践交流会—ICT とこれからの音楽教育—」については、音楽之友社『教育音楽』の小学版及び中学・高校版(2023 年 5 月号)の「まるごと WATCH!」にも掲載されています。ぜひそちらもご参照ください。

引き続き、ニュースレターでは「会員の最新刊・近刊等紹介」「会員の声」への皆様のご投稿をお待ちしております。書籍、CD、DVD などのリリースの情報がありましたら、基本的な書籍情報、音源情報に加えて「である調」90 字程度の紹介文をお送りください。

5 報告

1. 2023 年度 日本音楽教育学会 第 1 回常任理事会

日 時：2023 年 4 月 22 日（土）13:00-14:35

場 所：オンライン開催（Zoom）

出 席：榑藤、有本、齊藤、今川、今田、菅道子、木村、笹野、嶋田、杉江（記録）、寺田

開会に先立ち、榑藤会長より、昨年度 1 年間、学会運営が円滑に進められたことの報告と、今年度は久しぶりの対面大会が開催される予定であり、引き続き皆様の協力のもと進めていきたいとの挨拶があった。

なお、理事会と重複する審議事項・報告の一部は省略してすすめられた。

【審議事項】

1. 2022 年度決算報告（寺田）

寺田会計担当理事より 2022 年度決算について、4 月 21 日に会計監査会が行われたことも含めて報告があり、承認された。コロナ禍により、「旅費・交通費」をはじめ決算額の支出が予算額を下回った科目が多いが、コロナ禍が収まり平常の学会運営に戻ることを念頭に、今後必要な予算について適切に判断していくことが確認された。

2. 2023 年度事業計画及び補正予算について（齊藤・寺田）

齊藤事務局長より 2023 年度事業計画案の提案があり、承認された。また、寺田会計担当理事より 2023 年度補正予算案について、2022 年度の決算状況、大会における共同企画の申し込み方法の変更、名簿作成や資料のアーカイブ化事業、選挙電子化に伴う経費等を配慮した旨の説明があり、引き続き微調整を行うことも含めて承認された。

3. 2024 年度事業計画及び予算について（齊藤・寺田）

齊藤事務局長より 2024 年度事業計画案の提案があり、承認された。また、寺田会計担当理事より 2024 年度予算案について、現時点では基本的な方針を 2023 年度補正予算案に則って作成した旨の説明があり、引き続き微調整を行うことも含めて承認された。

4. 第 54 回大会について

10 月 14 日（土）・15 日（日）に弘前大学にて開催される第 54 回大会について、以下の事項が審議・報告された。

(1) 大会実行委員会より報告（今田）

今田大会実行委員長より、以下について説明・報告があり、承認された。

1) 大会実行員会委員の紹介と役割分担について

2) 大会実行委員会企画は「音楽教育とウェルビーイング：次世代に芸術が果たす役割を考える」のテーマのもと、三宅榛名氏による基調講演（オンデマンド）および 4 名のパネリストによるシンポジウムを企画している。

- 3) 弘前市観光コンベンション協会に助成金を申請し、採択された。
 - 4) 院生フォーラムは非会員の参加も認め、テーマに沿った「座談会」とする。
 - 5) 情報交換会は、弘前大学創立 50 周年記念会館岩木ホールにて開催の予定であり、参加費は 5,000 円とする。
 - 6) ポスター発表は 70 件ぐらいを想定し、2 部屋を用意する予定であるが、応募件数に応じて検討する。
 - 7) 非会員（臨時会員）の参加は当日のみ受付とし、HP の参加申込サイトからの事前申し込みは受け付けない。
- (2) タイムスケジュールについて(今川・杉江)
- 現段階での暫定的なスケジュールの大枠が示され、今後、研究発表数、共同企画数に応じて、ポスター発表の時間枠、常任理事会企画と共同企画の配置などを調整することが確認された。
- (3) 常任理事企画プロジェクト研究について(杉江・今川)
- 昨年度からの継続テーマ「生活史の中の音楽と音楽教育」のⅡとして、現代の子どもの音楽経験について、1987 年本学会実施の「小・中学生の生活と音楽に関する調査」との比較を念頭においた予備的調査を実施し、2 時点を比較することにより、歴史的文脈・社会的文脈の把握・理解への一材料を提供する方向で計画していることが報告され、承認された。
- (4) 応募要領、準備日程、参加登録システム、参加費について(齊藤、今田)
- 研究発表応募要領、準備日程についての報告・確認が行われ、昨年度からの変更点として「共同企画」の申し込みも申込専用サイトからとなること、研究発表・共同企画申込締切からプログラム作成、入稿までの期日が短く、効率的に準備を進める必要があることが確認された。
- 参加費については、以下の提案があり、承認された。
- 〈会員〉 事前：4,000 円 当日：4,500 円 学部学生：1,000 円
- * 1 日参加のみの金額の設定はなし
 - * 学部学生は、事前・当日問わず同額
- 〈非会員〉 両日参加：5,000 円 1 日参加：3,000 円 学部学生：1,000 円
- * 非会員は、当日受付のみ
 - * 学部学生は、1 日参加・2 日参加問わず同額
- (5) 韓国音楽教育学会 (KMES) ご招待について(榎藤)
- 韓国音楽教育学会会長を招待し、20 分程度の講演またはご挨拶を依頼すること、韓国学会員の発表申し込みは申込サイトからでなく、事務局にメールにて申し込んでもらうことが確認された。
- (6) その他 (齊藤)
- 大会に関わるその他の事項として、以下を確認した。
- ・ 2023 年 2 月 12 日の常任理事会にて修正された「大会の発表等に関する内規」
 - ・ 大会オリジナル HP に学会 HP からリンクをはること
 - ・ 数年ぶりの対面開催となることから、準備事項について十分に確認しながら進めることの必要性
 - ・ 対面開催を前提に準備を進めるが、状況が大きく変わった場合は見直しもありうること（情報交換会の開催についても同様）
5. 会則第 17 条に定められている「期」の解釈について(木村・嶋田)
- 当該期当初の理事が 2 年未満で辞任し、交替した場合、辞任者も後任者も期間の長短に関わらず 1

期とみなすことが提案され、承認された。なお、今回確認されたルールを、被選挙人名簿の根拠となる表（各期の役員データ）に明記することが確認された。

6. 調査研究・アンケート資料の扱いについて(杉江)

資料の保存・アーカイブ化WGの作業として、1987年調査のデータ再入力完了したこと、このデータを含み学会が実施した保存可能な調査データは事務局保管とすること、今年度は、保管資料の会員への公開・活用の方法についての検討が中心になることが報告された。

7. 2023年度日本音楽教育学会参事の委嘱について(権藤)

権藤会長より、2023年度参事の委嘱について推薦を受け付けていることの報告があり、2022年度に引き続き松本哲平会員の推薦があった。

〈次回会議の予定〉

第2回常任理事会 7月9日(日)14:00～: オンライン開催

第3回常任理事会 10月13日(金) 時間未定: 対面開催

2. 2023年度 日本音楽教育学会 第1回理事会

日 時: 2023年4月22日(土) 15:00～16:30

場 所: オンライン開催 (Zoom)

出席者: 権藤, 有本, 齊藤, 今川, 今田, 菅道子, 木村, 笹野, 嶋田, 杉江, 寺田, 石井, 石上, 伊藤真, 小畑, 國府 (記録), 津田, 三村, 山下, 伊藤誠 (会計監事), 島崎 (会計監事)

開会に先立ち、権藤会長より新年度に向けて挨拶があった。

【会務報告】〈2022年2月12日以降〉(齊藤)

2月12日 2022年度第4回常任理事会 (Web 会議)

3月18日 ニュースレター第91号 発行

3月31日 『音楽教育学』第52巻第2号発行

3月31日 2022年度会計決算

4月21日 2022年度会計監査会 (Web 会議)

【MLでの報告・審議事項の確認】(齊藤)

名簿作成と発行に関する基本方針として、2023年3月1日に常任理事 ML にて承認され、すでにHP上で公開されている内容について確認を行った。

【審議事項】

1. 新入会員及び退会者について (齊藤)

2023年2月12日以降の正会員新入会12名、正会員申出退会36名、名誉会員申出退会1名、について承認された。2023年5月末に2年未納だった場合、2022年度をもって自然退会となる正会員41名、学生会員1名について、可能な範囲での声掛けを行うこととした。

(2023年4月21日現在 正会員1558名 学生会員5名 名誉会員1名 特別会員3名)

◆正会員 新入会員 (2023 年 2 月 12 日 常任理事会以降)

個人情報保護のため削除しました。

2. 2022 年度決算報告及び監査報告 (寺田・島崎・伊藤誠)

寺田会計担当理事より 2022 年度決算報告が行われ、島崎・伊藤誠会計監事より 4 月 21 日の会計監査会において適正な会計処理が確認できたとの報告があり、承認された。

3. 2023 年度事業計画及び補正予算について (齊藤・寺田)

齊藤事務局長より、2023 年度事業計画案の説明があり、承認された。また寺田会計担当理事より、補正予算案について、昨年度の決算の状況や、各種の値上げに対応して、また、電子化の対応など質の高い事業を行うことができるように修正を行ったことが説明され、承認された。

4. 2024 年度事業計画及び予算について (齊藤・寺田・国府)

齊藤事務局長より 2024 年度事業計画案について、寺田会計担当理事より 2024 年度予算案について説明があり、承認された。

5. 第 54 回大会について (報告も含む)

(1) 大会実行委員会 [実行委員会企画, ポスター発表, 院生フォーラムなど] (今田)

以下、6 項目について説明があり、承認された。

1) 今田大会実行委員長より、大会実行委員の紹介があった。

2) 大会実行委員会企画について

「音楽教育とウェルビーイング: 次世代に芸術が果たす役割を考える」というテーマについて説明があり、基調講演者 (三宅榛名氏「子どもと現代音楽」とパネリスト (小沼純一氏, 松永加也子氏, 沼田里衣氏, 高橋憲人氏) についても紹介があった。

3) 助成金について

「弘前市観光コンベンション協会」への助成金申請が受理されたとの報告があった。

4) 院生フォーラムについて

非会員の参加も可能とする。研究発表やポスター発表という形式ではなく「座談会」とするこ

とが説明された。テーマについては、今後検討する。

5) 情報交換会

実施する方向 参加費：5,000 円

6) ポスター発表について

70 件くらいを想定して部屋を準備し、半分で入れ替える予定だが、応募件数に応じて会場は検討する。

(2) タイムスケジュールについて(今川・杉江)

研究発表は午前中、企画は午後という現段階での暫定的なスケジュールが示され、承認された。今後、研究発表数や共同企画数、韓国の学会会長の招待講演などに応じて調整を図る。

(3) 常任理事企画プロジェクト研究について(今川・杉江)

昨年度に引き続き「生活史の中の音楽と音楽教育Ⅱ」としてプロジェクト研究案が示された。大会に向けては、1987年に本学会が実施した「小・中学生の生活と音楽に関する調査」との比較を念頭においた予備的調査を行い、それぞれの世代の音楽環境変化について、既存の統計なども活用して分析する予定であることが説明され、承認された。

(4) 応募要領、準備日程、参加登録システム、参加費について(齊藤、今田)

研究発表応募要領、準備日程について確認を行い、5月9日に申込サイトがオープン予定であること、昨年度までと異なり、共同企画についても申込専用 web サイトからの申し込みとなることについて説明があった。参加費については以下のように提案され、承認された。

(会員) 事前：4,000 円 当日：4,500 円 学部学生：1,000 円

(非会員) 両日参加：5,000 円 1日参加：3,000 円 学部学生：1,000 円

※非会員の受け付けは当日のみ

(5) 韓国音楽教育学会 KMES ご招待について(権藤)

韓国音楽教育学会会長をご招待し、20分の招待講演を依頼する予定であること、韓国の学会員も発表申し込みが可能となるため、日本の会員と同じ締切で進める予定であることの説明があり、承認された。

(6) その他 [「大会の発表等に関する内規」の確認など](齊藤)

2月12日の常任理事会で承認された内規について確認し、承認された。

6. 第11回(2023年度)ワークショップについて(石上)

12月2日開催の「義太夫節(人形浄瑠璃文楽の音楽)に親しむ」について、開催場所が杉並区立阿佐ヶ谷中学校に決定したこと、7月20日から申し込み開始予定であること、参加費については当日の支払いではなく振り込みで対応することについて説明があり、承認された。

7. 会則第17条に定められている「期」の解釈について(木村・嶋田)

期の解釈について、当該期当初の理事が2年未満で辞任し、交替した場合、辞任者も後任者も期間の長短に関わらず一期とみなすことが確認され、承認された。なお、今回確認のルールについては、各期の役員データに明記する。

8. 育志賞の推薦について(権藤)

推薦の申し出がなかったため、本学会から推薦は行わないこととした。

9. 学会賞について (榎藤)

4月8日にオンラインで開催された学会賞審査委員会にて、第8回学会賞受賞者に小畑千尋会員が選ばれたことが報告された。授賞対象論文は「重度の聴覚障害学生の歌唱活動における内的フィードバック能力の獲得過程」(『音楽教育学』第52巻第1号)。第54回大会にて授賞式を行う。

10. 調査研究・アンケート資料の扱いについて (杉江)

1987年「小・中学生の生活と音楽に関する調査」については、データの再入力完了し、夏には調査用紙のPDF化作業を行い、用紙は廃棄する予定であること、また今後、データの公開・活用の方法について、調査資料の保存場所や方法についても検討していくことが報告された。

11. 2023年度日本音楽教育学会参事の委嘱について (榎藤)

2023年度参事についてMLにて引き続き検討し、越山沙千子会員、須田珠生会員、松本哲平会員の3名に委嘱することとなった。

12. その他

なし

【報告事項】

1. 各委員会等報告

(1) 編集委員会 (今田)

対面による第1回編集委員会を5月21日に聖心女子大学にて開催予定。論文再査読1本、報告再査読1本、研究論文2本、研究報告3本、『音楽教育実践ジャーナル』vol.21(通巻34号)、11本について審議、2024年12月31日発行予定の『音楽教育実践ジャーナル』vol.22(通巻35号)の特集テーマについても検討予定である。

(2) 国際交流委員会 (菅裕→齊藤)

日韓音楽教育実践交流会についての会計報告が行われた。また、学会HPの英語版の検討を進める予定であり、そのための費用が必要になる可能性があることが報告された。

(3) 広報委員会 (笹野)

5月18日に発行予定であるニュースレター第92号の編集作業を進行中である。第93号(東海地区・近畿地区)、第95号(中国四国地区・九州地区)の「会員の声」執筆者について推薦が依頼された。

(4) 選挙管理委員会 (山本→齊藤)

今年度はオンライン選挙となるため、そこに向けての詳細な日程について説明があった。オンライン投票が難しい会員については、従来通りの紙媒体による投票も可能であること、投票結果が判明するのが8月上旬となるため、ニュースレターへの掲載は12月とし、8月末に別紙印刷して郵送することが報告された。

(5) 音楽文献目録委員会 (長野→齊藤)

2月19日に委員会が開催され、オンラインの独自性を高めることを中心に審議が行われたことが報告された。

(6) 教科教育学コンソーシアム (伊藤真)

3月11日にオンラインにて第3回シンポジウムが開催され、報告の中心は日本環境教育学会と日本社会科教育学会であったこと、今年度は研究方法論についての議論が進められる予定であること

と、また、近日中に機関誌が公開予定であること、第2巻からは加盟学協会会員も投稿可能であることが報告された。

2. 地区例会報告(寺田・今田・齊藤・小畑・國府・笹野・伊藤真・菅裕→齊藤)

- 北海道地区 3月26日 オンライン開催 卒論1件、会員4件の発表、10名の参加があった。
- 東北地区 3月5日 オンライン開催 院生2件の発表、17名の参加があった。
- 北陸地区 3月5日 オンライン開催 9件の発表、23名の参加があった。
- 関東地区 3月18日 対面開催 博士論文4件の発表、32名の参加があった。
- 東海地区 3月26日 対面開催 3件の発表と部活動の地域移行についてのシンポジウムが行われ、30名の参加があった。
- 近畿地区 3月12日 オンライン開催 卒論2件、修論2件、教職大学院修了研究報告1件の発表が行われ、25名の参加があった。
- 中国四国地区 3月26日 対面開催 13件の発表が行われ、53名の参加があった。
- 九州地区 3月4日 対面開催 8件の発表と著作権に関わる講演会が行われ、43名の参加があった。

3. 会員名簿の発行について(菅道子→齊藤)

2023年度会員名簿作成の準備状況、日程について報告があった。12月中旬に完成、12月下旬には発送予定である。

4. その他

○選挙結果の承認について(権藤)

結果が8月上旬に判明するため、その後(8月中旬)MLにて常任理事会・理事会で承認し、別紙にて結果を送付する。ニューズレターへの掲載は、12月となる。

○地区例会・各種委員会の支出について(齊藤)

2月12日の常任理事会にて承認された、地区例会時の弁当代支出(1日業務の場合、1,000円程度支出可)に加えて各種委員会についても同様の扱いとすることを改めて確認した。

<次回会議の予定>

第3回常任理事会・第2回理事会 10月13日(金) 弘前大学にて対面で開催予定。時間未定

6 事務局より

事務局長 齊藤 忠彦

1. 第54回大会について

第54回大会は、2023年10月14日（土）、15日（日）に弘前大学にて対面で開催します。詳細は、学会HP及び申込専用Webサイトをご覧ください。

研究発表・共同企画の申し込み及び要旨登録〆切：2023年5月31日（水）15：00

大会参加（事前）申込〆切：2023年9月22日（金）15：00

大会参加費（事前）支払〆切：2023年9月26日（火）

※大会参加費（事前）は、会員・特別会員4,000円、学生会員（学部）1,000円です。

2. 年度会費納入のお願い

2023年度会費は7,000円、納入期限は5月31日です。期限内に会費を納めなければ、その後の送付物、研究発表や論文投稿に支障が出る場合があります。2年間会費を滞納すると自然退会となりますのでご注意ください。会費納入後、約2週間過ぎても、会費振り込みの確認メールが届かない場合は、事務局までEメールでお問い合わせください。

3. マイページ（会員専用ページ）の確認・更新のお願い

学会ウェブサイト上のマイページの登録情報の確認・更新をお願いします。2023年度は第26期会長・理事選挙の実施、会員名簿の作成を予定しております。マイページの登録情報を各自ご確認ください。特に新年度に所属地区・所属先・住所等の会員情報に変更があった場合は、速やかに修正登録をお願いします（会員情報の変更は事務局では受け付けておりません）。

4. 第26期会長・理事選挙に関わるお願い

選挙に関わる名簿作成は、2023年5月31日のマイページの登録情報をもとに作成しますので、各自の責任で必ずご確認ください。

5. 事務局について

2023年度は、宇田川さん、亀山さん、徳山さん、若尾さんの4名が事務局業務を担当します。開局日は火曜日と木曜日の10：00～15：00です。

..... 【編集後記】

いよいよコロナウイルス感染症も第5類へという5月8日に、このニュースレターの編集作業をしています。今年度は、待ちに待った4年ぶりの対面での全国大会。今年はこうした嬉しい情報をこのニュースレターに多く掲載できますことを楽しみに、笹野委員長・上野・中嶋・村上・早川の5名のメンバーで、残り1年間取り組んでまいります。よろしく願いいたします。（早川倫子）

.....

【日本音楽教育学会事務局】

所在地：〒184-0004 東京都小金井市本町 5-38-10-206 Tel. & Fax. : 042-381-3562

E-mail : (半角) onkyoiku@remus.dti.ne.jp

私書箱：〒184-8799 東京都小金井郵便局私書箱 26 *郵便物は私書箱へ

郵便振替口座：00110-6-79672, 日本音楽教育学会

他金融機関からの振込：ゆうちょ銀行、〇一九（ゼロイチキュー）店、当座0079672, 日本音楽教育学会事務局員：宇田川・亀山・徳山・若尾

※新型コロナウイルスの影響を鑑み、事務局開局の状況が不規則です。ご用件はEメールにてお願いいたします。